

平成22年度実施「いきいき協働事業」相互検証評価シート

事業名	生ごみ堆肥で作った野菜を食べよう（地産地消・資源循環モデル事業）
団体名	特定非営利活動法人 小平・環境の会
担当課名	環境部 ごみ減量対策課

①目的の共有（事業の目的をお互いに理解し、共有しながら事業を進めましたか。）

団体自己評価【達成できた】	担当課自己評価【達成できた】
【共有できたこと】 事業の開始時には、事業の目的、目標について、団体と担当課で、最終的に目指している点についてお互いの共通認識が浅かった。しかしながら、平成22年度に本事業と「食物資源循環モデル事業」の2事業を担当課は開始し、事業の実施を通して団体が目指す方向について理解がされた。	
【考え方に違いがあったこと】 団体は、市内完全循環のモデル事業の構築を目指すとしていたが、担当課はリサイクル施策の推進と考えている。	
【改善が必要と思われたこと】 団体及び担当課は、事業の目的、目標の考え方にズレがあると、成果を上げることが困難になる可能性があるため、事業開始時だけでなく、その都度十分に話し合い、理解することが必要と考えている。	

②自主・自立の尊重（双方の団体としての独立を尊重し、過度に依存することなく事業を進めましたか。）

団体自己評価【達成できた】	担当課自己評価【達成できた】
【共有できたこと】 事業開始の際、互いの役割分担についてよく調整したため、事業実施の役割分担については、互いによく尊重された。	
【考え方に違いがあったこと】 団体としては、もう少し行政は汗をかくものと考えていたが、委託契約による資金提供が主なものだった。	

③相互理解（互いの組織としての理念や使命、組織運営の考え方を理解し、事業実施に際しては柔軟な対応が図られましたか。）

団体自己評価【達成できた】	担当課自己評価【達成できた】
【共有できたこと】 本事業を実施するにあたり、東京都へ確認する事項があり、事業を開始する前、開始時と担当課が都との調整を行い実施することが出来た。その後については、事業の実施を通じて互いの立場を理解することが出来た。	
【考え方に違いがあったこと】 団体は、事業について一緒に取り組むと考えていたが、担当課は委託事業として事業の進行は、団体に任せていた。	

④対等関係（互いの事業活動について対等な立場にあるため、事業を進める様々な場面において、適切な協議、意見交換等の機会を設け、一方的に決めることなく十分に話し合います。）

団体自己評価【概ね達成できた】	担当課自己評価【達成できた】
【共有できたこと】 9月の学習会に向けての準備をする中で、担当課からの事業協力があり、団体との連携が確認できた。	
【考え方に違いがあったこと】 団体は、事業の対等性について共有する話し合いの時間は十分に持てなかったと考えている。行政は、事業に対してアドバイスが出来なかったと考えている。	

⑤情報の共有（相手方と十分な情報の共有ができましたか。）

団体自己評価【達成できた】	担当課自己評価【概ね達成できた】
【共有できたこと】 生ごみ堆肥で作った野菜を食べよう(地産地消・資源循環モデル事業)と食物資源循環モデル事業との連携が図られ、地産地消のモデル世帯に入れなかった市民で、食物資源の事業に参加することが出来た。	
【考え方に違いがあったこと】 団体は、担当課の担当者が平成22年4月に異動となったため、団体が調整したい内容について担当課にうまく伝わらなかった。また、平成21年10月に事業採択がされて、事業の準備をいつから始めるかわからなかった。	

⑥役割分担と責任の明確化（事業実施にあたって役割分担が明確に定められていましたか。）

団体自己評価【充分達成できた】	担当課自己評価【充分達成できた】
【共有できたこと】 担当課では、業務内容が他課にまたがるため取り組むことが困難な事業内容であったが、団体が協力家庭・農家の調整、ロコミ、各家庭へのポスティングを行い、行政は市報や「ごみらいふ(機関誌)」で周知したことにより、予定どおりの取り組みがなされた。	

⑦協働事業の相乗効果（市が単独で実施するより効果的・効率的な事業展開ができましたか。）

団体自己評価【達成できた】	担当課自己評価【充分達成できた】
【共有できたこと】 団体は、市の協働事業を実施することで市報等の周知、協力農家の理解、学習会での担当職員と連携して事業が実施できた。担当課は、市民ならではの企画した事業内容や、市民へのロコミによる周知など行政には無い手法により達成できた。	
【考え方に違いがあったこと】 担当課は、団体に事業のノウハウがあり、任せっきりにしてしまった。団体は、事業のやり方で担当課と意思の疎通を欠いてしまった。	

⑧目標の達成（事業の目的が達成できましたか。）

団体自己評価【達成できた】	担当課自己評価【達成できた】
【共有できたこと】 団体及び担当課は、活動状況報告書どおり提案した事業についてほぼ達成された。	
【考え方に違いがあったこと】 団体は、今後の事業の継続について、様々な創意工夫で継続したいと考えている。	

⑨地域の課題解決（事業を通じて、地域の課題解決が進みましたか。）

団体自己評価【達成できた】	担当課自己評価【達成できた】
【共有できたこと】 本事業を通じて、ごみ減量・良質な堆肥作り・環境に配慮する市民の声等から、市内の排出可燃ごみ量の約半分を占める生ごみを有機資源と位置付ける有効性について確認がとれた。	
【考え方に違いがあったこと】 団体は、本事業を通じて地産地消や食農教育の取り組みまで、視野に入れているが、担当課はごみ減量の取り組みに主眼が置かれている。	
【改善が必要と思われたこと】 団体は、担当課が担当する業務がごみ減量の分野に限定されていることは理解出来るが、団体が目指す目標が、農業や食の安全等広い分野の課題に及んでいるため、庁内の他の関係する課との連携を図り、行政全体で課題についての検討する必要があると考えている。	

その他意見（いずれも提案団体から）

事業の執行を、委託契約を締結し実行したが、疑問があった。
事業期間が単年度だが、堆肥の効果を見るには複数年度必要である。事業期間を見直してほしい。
いきいき協働事業を公募する際、市が地域課題に取り組むテーマを設定してほしい。
本評価を実施したことから協働の取り組みが理解出来たので事業開始時に説明を受けたかった。
役割分担について事業開始に先立って気軽に話し合える場が必要であった。